

令和3年度日耳鼻福岡県地方部会委員会報告

【令和3年度学術委員会活動報告】

委員長 千年 俊一

令和4年3月7日～3月17日：学術委員会メール審議

発言要旨

<学術企画について>

- ・ 手術手技などテーマを絞ったシンポジウム形式の討議がほしい。
- ・ 鼻科手術指導医、耳科手術指導医の制度ができたので基本的な手術手技についてのビデオセッションなどテーマを決めた講演があれば勉強になる。
- ・ 地方部会と福耳会（開業医中心の専門医会）構成員がほぼ一致したので、開業医の参加をさらに促す様に開業医の関心のある外来でできる小手術や処置などの教育講演はどうか。
- ・ 各領域で全国学会のシンポジウムやパネルディスカッションに取り上げられた演題を地方会でもう一度発表してはどうか。
- ・ 地方会ごとに前もって募集するテーマ、それに関連する企画セッション、例えば最近ならCovid19関連など、が一つあればいい。

<開催形式について>

- ・ 感染症流行時への対策として、また遠方からの参加者を増やすために、さらには流行がおさまった後も、現地とWebのハイブリッド開催を希望する。
- ・ オンデマンド聴講を可能にして欲しい。

<学術集会参加について>

- ・ 医局を通じて、発表者以外の先生にも学会参加を促してもらう。

【令和3年度 福岡県地方部会保険医療委員会 活動報告】

保険医療委員会委員長 松田洋一

1.福耳会地方部会合同保険医療委員会を3回開催した。(オンライン)

2.以下の会議への出席・報告した。

令和3年 7月 4日 九州ブロック保険医療委員会(オンライン)

令和3年 9月26日 第16回日耳鼻保険診療委員会全国協議会(オンライン)

令和4年 1月30日 令和3年度日耳鼻保険医療委員会全国会議(オンライン)

令和4年 3月21日 日耳鼻診療報酬改定伝達会議(オンライン)

3.以下の調査・アンケートを行った。

令和3年度福耳会保険診療に関するアンケート 令和3年4月

令和3年度福耳会保険診療調査 令和3年10月

令和3年度日耳鼻保険医療実態調査 令和3年10月

《令和3年度 第1回福耳会保険医療委員会地方部会保険医療委員会合同委員会》

日時：令和2年5月27日(木) 19:00～21:00

【報告事項】

福耳会保険診療に関するアンケート調査について

【協議事項】

- 1.保険診療アンケートにおける疑義・要望事項、および九州ブロック保険医療委員会への提出議案について
- 2.令和3・4年度職務分掌

《令和3年度 第2回福耳会保険医療委員会地方部会保険医療委員会合同委員会》

日時：令和3年10月14日(木) 19:00～21:00

【報告事項】

- 1.国保情報
- 2.第16回日耳鼻保険医療委員会全国協議会報告
- 3.令和2年度福耳会診療アンケート結果報告

【協議事項】

- 1.令和3年度福耳会診療アンケート
- 2.令和3年度日耳鼻保険診療調査
- 3.令和4年度福耳会保険医療講習会(福岡県耳鼻咽喉科専門医会専門医共通講習並びに耳鼻咽喉科領域講習会の開催について)

《令和3年度 第3回福耳会保険医療委員会地方部会保険医療委員会合同委員会》

日時：令和3年2月3日（木）19:00～21:00

【報告事項】

1. 国保情報
2. 令和3年福耳会診療調査(速報)
3. 令和3年度日耳鼻保険医療委員会全国会議報告
4. 日耳鼻耳鼻咽喉科保険医療実態調査

【協議事項】

1. 令和4年度福耳会保険医療講習会（福岡県耳鼻咽喉科専門医会専門医共通講習並びに耳鼻咽喉科領域講習会）の開催について
2. 保険診療に関するアンケートについて

《第16回日耳鼻保険医療委員会全国協議会》

日時：令和3年9月26日 10時～13時

- ・ 協議議題質疑応答
- ・ 令和2年度耳鼻咽喉科実態調査報告（令和2年10月診療分）
- ・ 要望事項

《令和3年度保険医療委員会 全国会議》

【保険医療委員会活動報告】 委員長 川寄良明 先生

【全国会議】

演題1：COVID-19と嗅覚、味覚障害

講師：金沢医科大学耳鼻咽喉科 教授 三輪高喜先生

演題2：耳鼻咽喉科リハビリテーションの現状と課題

-研修施設を対象とするアンケート調査の結果-

講師：近畿大学医学部耳鼻咽喉科 土井勝美先生

【令和3年度学校保健委員会活動報告】

委員長 矢武 克之

令和3年第1回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

2021年5月20日 19時より ZOOM によるオンライン会議

出席：上村弘行、河野浩万、黒木岳人、小宗徳孝、迫真矢子、高野潤、妻鳥敬一郎
中川尚志、村塚幸穂、矢武克之、渡辺滋之

1. 報告事項

1) 日耳鼻、日本臨床医会学校保健委員会より

- ・2020年度コロナ禍における健診状況についてのアンケートをおこなう予定。
対象は全会員。方法はインターネットで行う
- ・2021年の定点調査に関して、現在、コロナ感染流行で健診が延期になっている学校が多いが現時点（令和3年5月時点）では本年度定点調査は予定通り行われる予定

2) 7月17日福耳会学校医講習会の準備状況について

日時：令和3年7月17日（土）16:45 開始

場所：西鉄インホテル大会場 開催方法はハイブリッド開催

演者の先生は現時点で来福予定

案内状はメーリングリストにて約1カ月前に送信予定。FAXによる送信を希望の先生には河野先生より案内状を送信していただく。当日の受付担当は黒木理事と矢武委員長

2. 協議事項

1) 学校医健診アンケートについて

- ・委員よりアンケートの設問が持ち寄られた。その中から30問程度を選び、さらに内容を一部見直すこととした。
- ・中川教授より健診のなかで耳鼻咽喉科学校医のプレゼンスを示すことが必要。そのためには県内の健診の現状を把握することだけでなく、現在の耳鼻咽喉科健診の問題点を見つけることが重要であり、将来の健診のあり方について提言を打ち出してはどうかとの意見があった。

2) 出務

- ・学校医大会九州ブロック（8/8日曜 沖縄） 黒木理事、矢武委員長が出席予定
- ・令和3年度第52回全国学校保健・学校医大会（10/30土曜 岡山国際交流センター）
矢武委員長が出席予定

3) 現在の学校健診の進捗状況について

迫先生より各地区の先生の学校健診の進捗状況がどのようになっているかの質問あり
大半の先生が緊急事態宣言後の健診は延期されている現状であった。

4) その他

日耳鼻からの配布物（耳鼻咽喉科学校保健の動向）等の郵送費は福耳会と地方会への請求が可能である。

令和3年第2回福耳会・地方部会合同学校保健委員会

2021年11月9日 19:30よりZOOMによるオンライン会議

出席：上村弘行、河野浩万、黒木岳人、小宗徳孝、迫真矢子、高野潤、妻鳥敬一郎
中川尚志、村塚幸穂、矢武克之、横光智、渡辺滋之

報告事項

1) 第21回福耳会学校医講習会（令和3年7月17日）

日時：令和3年7月17日（土）16:45開始

場所：西鉄インホテル大会場 開催方法はハイブリッド開催

WEB参加76名 会場参加16名 計92名参加 演題は2題

講習I 17:00～18:00

司会 医療法人 耳鼻咽喉科たか野クリニック 院長 高野潤 先生

演題名『鼓膜穿孔に対する手術法の選択と経外耳道的内視鏡下耳科手術』

演者：高知大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 病院教授 小林 泰輔 先生

講習II 18:10～19:10

司会 医療法人 浩仁会 柴田クリニック 副院長 迫 真矢子 先生

演題名『聞こえているのに聴いていない、聴いているのに聞こえない』

演者：広島県立病院 小児感覚器科 主任部長 益田 慎 先生

2) 学校医健診アンケート結果報告。（資料：福耳会アンケート）

質問は32問（期間7月3日～7月31日）

アンケート送信、回答方法はすべてWEB方式とした。回答数は62件

アンケート結果はメールリストにて8月12日に会員に送信した

3) 出務

- ・学校医大会九州ブロック（web開催8/8日曜 沖縄）
渡辺副会長、黒木理事、矢武委員長が出席。黒木先生より講演内容の説明があった
- ・令和3年度第52回全国学校保健・学校医大会（WEB開催10/30土曜 岡山）
矢武委員長が出席。矢武より講演内容の説明があった
- ・令和3年度第1回福岡県医師会学校保健委員会（web開催）
矢武委員長より委員会内容の説明があった
耳鼻咽喉科に関する議題はなし。主に内科健診に関する内容であった。

協議事項

- ・令和3年度日耳鼻・臨床医会学校保健委員会代表者会議の出務
令和4年1月30日（日曜日）13:30よりウェブにて開催予定
会議の内容は日耳鼻と医会からの報告事項、協議、講演である。
協議のテーマは「今後の耳鼻咽喉科の健診のありかた」
講演：静岡県立総合病院 感覚機能センター長 高木明先生
福耳会会員にはメールリストにて案内を配信済み。参加希望の先生は矢武か九州大学の岳野さんに連絡していただく。
- ・令和4年度学校医講習会に関して（日程、場所、協賛、演者）
候補日は令和4年7月30日土曜日とする。
協賛会社は現時点では未定。演者は協賛会社推薦の先生の講演1題と言語に関する講演を30分ずつ2題。計3題という案が出された。
協賛会社と候補の演者の先生は矢武が交渉にあたる。

令和3年度第3回福岡県地方部会・福耳会合同学校保健委員会

2022年2月8日 19:30よりZOOMによるオンライン会議

参加者：上村弘行、河野浩万、黒木岳人、小宗徳孝、迫真矢子、高野潤、妻鳥敬一郎
中川尚志、村塚幸穂、矢武克之、横光智

報告事項

令和3年度耳鼻・臨床医会学校保健委員会代表者会議

令和4年1月30日（日）WEB開催

- ・報告事項

日本医師会学校保健委員会、日本学校保健会からの報告

令和3年度政令指定都市定点調査報告

令和3年度「コロナ渦の耳鼻咽喉科定期健康診断・就学時健康診断の実施状況」のアンケート結果報告

以上の報告事項あり

- ・協議事項

「今後の耳鼻咽喉科健診の在り方について」というテーマで昨年おこなわれた同じテーマのアンケート結果をもとに協議が行われた

- ・研修会

「就学時健診と教育委員会への耳鼻咽喉科医の関わり」

静岡県立総合病院感覚機能センター長 高木明

協議事項

- ・令和4年度 福耳会・地方部会講演会（学校医講習）について

- ・決定事項

日時：令和4年7月30日土曜日

場所：TKP ガーデンシティ天神

演者：植田耳鼻咽喉科医医院院長 植田宏先生（ウェブ参加）

福岡市立こども病院 言語聴覚士 原田恭子先生

協賛：なし

- ・未定事項

開始時間と配信方法に関してはメールリストにて引き続き協議

・その他の意見として矢武委員長より「全国学校医大会に福岡県として演題を出してはどうか、内容としては学校保健に関するアンケート(例えば、養護教諭に対して学校検診に対する評価や問題点、要望などを尋ねるなど)を作成しその内容を発表してみてはどうか」という提案が出され、今後の検討課題とした。

3) 次回学校保健委員会日程 令和4年5月31日

【令和3年度福岡県地方部会福祉医療委員会報告】

委員長 前田 明輝

活動報告

- 1.令和3年度は福耳会・地方部会合同福祉医療委員会を2回開催した。
- 2.令和3年度日耳鼻福祉医療・成人老年委員全国会議は、令和4年1月30日にweb開催された。
- 3.令和3年6月12～13日に福岡県地方部会担当で第46回全国身体障害者福祉医療講習会/第26回補聴器キーパーソン全国会議がWeb開催された。
- 4.令和3年8月29日開催予定の第7回嚙下障害講習会は2022年8月28日に延期となった。
- 5.日耳鼻福祉医療・乳幼児担当者全国会議は、令和4年1月30日にWeb開催された。

議事録

令和3(2021)年度第1回福耳会・福岡県地方部会合同福祉医療委員会 議事録

日 時：令和3年6月23日(水) 19:30～

場 所：ZOOM会議

出席者：安達一雄、稲光まゆみ、河野浩万、菊池良和、坂田俊文、佐藤祐司、
柴田美雅、末吉誠一、千年俊一、土橋奈々、中川尚志、濱之上隆史、原 崇、
平木基裕、藤田真知子、宮地英彰、前田明輝、村塚幸穂、安松千絵、山下道子

欠席者：上田祥久

(五十音順・敬称略)

【会長挨拶】 村塚会長 中川教授

新任委員自己紹介

委員長・副委員長の選出 委員長：前田委員、副委員長：上田委員、原委員 で承認。

【報告事項】

1. 「言語聴覚フェスタ2021」への協賛について：稲光委員

福岡県言語聴覚士会は、毎年9月1日の「言語聴覚の日」に合わせて「言語聴覚フェスタ」のイベントを実施しているが、昨年はコロナ禍のため中止となった。今年は、チャットを用いた無料相談会を実施する予定。言語聴覚士会から名義協賛の依頼があり、村塚会長と相談し例年通り承諾することをした。

2. 第26回補聴器キーパーソン全国会議：宮地委員

日 時：2021年6月12日(土)、13日(日) オンライン開催

<第26回補聴器キーパーソン全国会議>

- 1) Japan Hearing Vision2019について(土井勝美先生)

- 2) 医療費控除に関する税制度について(杉内智子先生)

補聴器購入時の医療費控除に関しての説明、補聴器適合に関する診療情報提供書の普及状況についての報告。

- 3) 補聴器相談医講習会に関するアンケート調査の結果報告について(石川浩太郎先生)

<補聴器キーパーソン モーニングクローズド・ミーティング>

- 1) テクノエイド協会による認定補聴器専門店の審査について(伊藤 健先生)

- 2) 補装具費支給制度などに関する要望について(石川浩太郎先生)

中川教授より補足：福岡県の乳幼児聴覚支援センターは、中学高校生までは相談できる。補聴器適合に関する診療情報提供書の作成に関して、インセンティブの導入については日耳鼻の議題に上がっているところである。福岡県として行う補聴器相談医の委嘱のための講習会を開催する予定はしばらくない。

【協議事項】

1. 第7回嚙下障害講習会について：前田委員長

8/29開催予定の上記講習会について、新型コロナウイルスの拡大が懸念されるが、ハイブリッド、対面などの開催方式についてはどのようにすべきか。→7月の感染状況で決めるとする案もあったが、参加者が医師に限らずSTや歯科医師なども含まれるため、一旦案内した後、途中で中止とすると混乱を招きかねない。2021年度は中止とし、基本的に講師などのメンバーは同じで2022年8月末に延期にすることで承認。

2. 補装具費支給制度に関する要望事項について：宮地委員

6月13日の補聴器キーパーソン モーニングクローズド・ミーティングにて、石川浩太郎先生より各地方部会補聴器キーパーソンからの補装具支給制度などに関する要望を集める依頼があった。要望を厚生労働省が検討し、補装具評価検討会で検討し、政策立案となるため。→人工内耳を固定するイヤーマールド、成人の補聴器両耳装用、プロボックス、基準外申請（成人交付、軟骨伝導補聴器）についての補装具支給拡大について意見あり、要望することも考慮。

令和3(2021)年度第2回福耳会・福岡県地方部会合同福祉医療委員会 議事録

日 時：令和4年2月17日（木）20：00～

場 所：ZOOM 会議

出席者：安達一雄、稲光まゆみ、上田祥久、河野浩万、菊池良和、坂田俊文、佐藤祐司、柴田美雅、末吉誠一、土橋奈々、濱之上隆史、原 崇、平木基裕、藤田真知子、宮地英彰、前田明輝、村塚幸穂、山下道子

欠席者：千年俊一、中川尚志、安松千絵

(五十音順・敬称略)

【会長挨拶】 村塚会長

【報告事項】

1. 令和3年度福祉医療・成人老年委員全国会議の報告：前田委員長

日時：令和4年1月30日（日）9:00～11:30 オンライン開催

1) 令和3年度事業報告、令和4年度事業計画

2) 講演「国立長寿医療研究センターにおける摂食嚙下障害・聴覚障害に対する取り組み」国立長寿医療研究センター理事長 荒井秀典 先生

3) 協議事項：

- ・「令和2年度 軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入費用助成制度の地域差に関する調査報告」
- ・「自治体における難聴高齢者の社会参加等に向けた適切な補聴器利用とその効果に関する研究」

2. 令和3年度福祉医療・乳幼児担当者会議報告：土橋委員

日時：令和4年1月30日 13：30～16：00 オンライン開催

- 1) 令和 3 年度事業報告、令和 4 年度事業計画
- 2) 新生児聴覚スクリーニング・乳幼児健診後の精密聴力検査機関・二次聴力検査機関への令和2年受診児に関する実態調査報告
- 3) 精密聴力検査機関および二次聴力検査機関リストの改定について
- 4) 令和 2 年度 3 歳児健診における聴覚検査および1 歳 6 カ月時健診における聞こえの確認方法に関するアンケート調査報告
- 5) 令和 2 年度軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入費用助成制度の地域差に関する調査報告
- 6) 総括

3. 「障害者総合支援法における補装具（耳かけ型補聴器）の取り扱い」について：末吉委員
現在、補聴器の支給は、補聴器の処方はポケット型ではなく耳かけ型が標準となっているが、地域によっては市町村担当者から耳かけ型を断られると、昨年 11 月に会員から情報提供があった。会員には、福祉医療委員長よりメーリングリストで耳かけ型が標準であることを周知し、市町村担当者には、2 月 8 日の福岡県障がい者更生相談所との連絡会議において、処方基準の再確認がなされた。

耳かけ型補聴器を処方する場合は、就学中又は就労中の者、自動車運転等のためポケット型の使用が困難な場合、ポケット型のコードが活動の妨げになる者、杖やシルバーカーを使って歩くためポケット型では支障がある場合など、ポケット型の使用が困難であることを理由として記載する必要がある。

4. 補聴器装用、宇都宮方式について：藤田委員
最近、リオネットの熊本、博多、小倉の店舗で、宇都宮方式を用いて言語聴覚士のサポート下に補聴器装用者の聴覚リハビリテーションを行う「きこえの相談室」が開設されており、その情報提供がなされた。耳鼻科医師の役割は、認定補聴器専門店で患者を紹介することで終わりではないことを認識してもらいたい。

【協議事項】

1. 嚙下障害講習会の開催について：安達委員
新型コロナウイルス感染症の影響で延期になっており、今年の開催をどうするか。
→今年はできれば開催したい。8月最終週の土日を候補日として、オンライン開催、ハイブリッド開催を含めて可能か検討する。周知する範囲は歯科医師会、言語聴覚士協会、県の医師会。オンラインを含めた開催となると、九州大学の協力が必要になるため、中川先生に相談する。

【その他】

- ・稲光委員より
日本臨床耳鼻咽喉科医会の嚙下障害診療ワーキンググループで、嚙下障害診療初心者医師を対象に診療マニュアルと患者用パンフレットを作成中。3月に送付される会報誌に患者用パンフレットを同封する予定。今後はホームページからダウンロードできるようになる予定。

【令和3年度 補聴器キーパーソン活動報告】

宮地 英彰

令和3年度福祉医療・成人老年委員全国会議（Web開催）報告

前田明輝

日時：令和4年1月30日（日）9:00～11:30

中継場所：日本臨床耳鼻咽喉科医会会議室

<報告事項>

1. 令和3年度事業報告

- ・令和3年9月15日と令和4年1月28日に福祉医療・成人老年委員会を開催した。
- ・令和3年6月12日・13日に福井県地方部会の担当で第46回全国身体障害者福祉医療講習会・第26回補聴器キーパーソン全国会議をWeb開催した。
- ・補聴器相談医の新規委嘱及び更新の認定準備を進め、更新した相談医名簿は学会ホームページに公開した。
- ・補聴器相談医制度の適切な運営を行い、相談医の委嘱及び更新のための講習会開催の支援を行った。
- ・補装具支給基準改定に関する厚労省からの書面ヒアリングに回答した。
- ・「補聴器販売者の技能向上研修等事業」の委員推薦を行った。
- ・令和3年3月19日に補聴器販売店協会、補聴器工業会との合同会議を開催した。
- ・令和4年1月30日に「令和3年度福祉医療・成人老年委員全国会議」をWeb開催する準備を進めた。

2. 令和4年度事業計画

- ・令和4年度福祉医療・成人老年委員全国会議を開催する。
- ・第47回全国身体障害者福祉医療講習会・第27回補聴器キーパーソン全国会議を沖縄県地方部会の担当で令和4年6月11日（土）、12日（日）に那覇市において開催する。

<社会保障に関する耳鼻咽喉科学的研究調査事業>

- ・超高齢社会における難聴、めまいや嚥下障害などに対して幅広い対策を講じる。
- ・「補聴器販売に関する日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の基本方針」の実現に向けて、学会が行う活動の検討を行い、補聴器キーパーソン活動の円滑な運営を図る。
- ・障害者総合支援法に関連して、耳鼻咽喉科の専門的立場から障害認定やその運用、補装具費支給が適切に実施されるように検討を行う。
- ・中央・地方官庁の福祉医療担当部門、医師会ならびに関係団体との連携を密にし、障害者、高齢者の福祉の充実に寄与する。
- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医制度の適切な運営をを行い、委嘱及び更新の為の講習会開催の支援を行う。
- ・日本医学会連合の「領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたWG」活動に参加する。

<その他>

- ・当委員会が関係する日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会ホームページ掲載項目について検討を行う。

<講演>

「国立長寿医療研究センターにおける摂食嚥下障害・聴覚障害に対する取り組み」

国立長寿医療研究センター理事長 荒井秀典 先生

日本の総人口が減少に転じていく中、75歳以上の高齢者の急速な増加が進む中、健康寿命（サルコペニアやフレイルを含め）について考えなければならない。

A.サルコペニアについて

- a. 診断基準：①筋肉量低下に②筋力低下（握力）か③身体能力低下（歩行速度等）を伴うかあるいは②筋力低下+③身体能力低下を共に伴うこと
- b. 予防：栄養（蛋白質 1～1.2g/kg/日、VitD 摂取量 20～25 μ g/日）と運動（レジスタンス運動：筋トレ等、有酸素運動：歩行等）

B.フレイルについて

- a.概念：加齢や疾患により身体的・精神的機能が衰え、心身のストレスに脆弱になった状態
- b.スクリーニングと評価：体重減少、筋力低下、疲労感、歩行速度、身体活動
- c.予防と介入：運動・栄養・社会参加や生きがい、ポリファーマシー対策、オーラルケア

C.サルコペニアと摂食嚥下障害について

- a.一般的な Neurogenic dysphasia のリハビリテーション：言語聴覚士（筋力増強、嚥下手法、姿勢調整、感覚促通）、管理栄養士（嚥下調整食）、看護師（口腔ケア）
- b.高齢者モデルの摂食嚥下障害対策：栄養と運動（経口栄養補助食品+運動介入で筋肉量増加、筋力増強、身体機能向上に繋がる。）
- c.オーラルフレイル：口腔機能低下により身体的フレイル、サルコペニアに繋がる

D.補聴器外来とフレイル調査について：聴覚障害と総合機能・認知機能の関連について

<協議事項>

- 1.「令和2年度 軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入費用助成制度の地域差に関する調査報告」について
 - ・全ての自治体で補聴器購入費用助成制度がある
 - ・補聴器単体では助成の基準や更新などほぼ同じ
 - ・無線装置、軟骨伝導、修理費などは対応が二分
 - ・具体的な助成人数、助成金額は大きな地域差
 - ・不平等がないように地域差をなくす取り組み
- 2.「自治体における難聴高齢者の社会参加等に向けた適切な補聴器利用とその効果に関する研究」について
 - ・自治体における難聴高齢者の把握の取り組みの実態把握を目的に、早期発見の為に聴力検診、地域の通いの場等、補聴器購入の公的助成、購入後のモニタリングやフォローについて調査した。
 - ・現行では自治体における難聴高齢者の把握の取り組みは十分になされていない

【令和3年度福祉医療・乳幼児担当者全国会議報告】

土橋 奈々

令和3年度 福祉医療・乳幼児担当者全国会議

日時：令和4年1月30日（日） 13：30～16：00

場所：日本臨床耳鼻咽喉科医会会議室、オンライン

出席者：土橋 奈々

1. 令和3年度事業計画 報告事項： 守本 倫子 委員長

- ・令和3年度乳幼児委員会全国会議を令和4年1月30日(日)に、WEBで開催した。
- ・令和2年度3歳児健診における聴覚検査および1歳6カ月児健診における聞こえの確認方法に関する実態調査を行い、その結果を冊子にまとめ地方部会長および乳幼児医療担当者へ配布した。
- ・人工内耳手術報告書をデータ化した。
- ・「新生児聴覚スクリーニング・乳幼児健診後の精密聴力検査機関・二次聴力検査機関への令和2年受診児に関する実態調査」を行った。
- ・「新生児聴覚スクリーニング後の二次聴力検査機関のための手引き」および「二次精査機関用聴覚スクリーニングリファーマー後の対応マニュアル」を作成し、日耳鼻ホームページに掲載、さらに精密聴力検査機関および二次聴力検査機関に配布した。
- ・「軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入費用助成制度の地域差に関する調査報告」「軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入費用助成のあり方についての提言」を臨床耳科医会に協力して作成し、各都道府県の医会長、地方部会長、乳幼児委員に送付、日耳鼻ホームページに掲載した。
- ・耳音響放射検査の適切な活用方法について解説文を作成した。
- ・全日本ろうあ連盟の「ろう乳幼児等支援対策プロジェクトチーム」に委員として参画した。
- ・「こども庁創設のための Children First の子ども行政のあり方勉強会」に日耳鼻として傍聴参加した。
- ・難聴対策推進議員連盟第13回総会に参加した。
- ・「新生児聴覚検査体制整備事業」推進のための現状把握アンケート調査を全国の乳幼児委員対象に行った。

令和4年度事業計画案

<調査および研究事業>

- ・乳幼児聴覚検診について全国の実態把握に努め、問題点を調査し、精密聴力検査に関わる円滑なシステム作りに取り組む。
- ・1歳6カ月児健康診査および3歳児健康診査リーフレット（第2版）、耳鼻咽喉科医のための3歳児健康診査の手引き（第3版）、新生児聴覚スクリーニングマニュアル、新生児聴覚スクリーニング後の二次聴力検査機関のための手引きについての普及に努める。
- ・人工内耳報告書のデータ化をする。
- ・「新生児聴覚検査体制整備事業」推進に必要な方策を検討する。

<研究会および学術講演会等事業>

- ・日本耳鼻咽喉科学会各地方部会の福祉医療・乳幼児担当者全国会議を開催する。

<社会保障に関する耳鼻咽喉科学的研究調査事業>

- ・耳鼻咽喉科領域の乳幼児の福祉医療の向上のための活動を行う。

<その他>

- ・予防接種などについて、関係学会や行政と連携し、医療の向上を図る。

- ・ 地方部会、関係学会、全日本ろうあ連盟、その他の関係団体と連携し、必要な事項を協議し、地域の福祉保健活動を支援する。
- ・ 難聴対策推進議員連盟総会に参加する。
- ・ 子どもの耳鼻咽喉科疾患に関する広報活動に努める

2. 新生児聴覚スクリーニング・乳幼児健診後の精密聴力検査機関・二次聴力検査機関への令和2年受診児に関する実態調査報告： 益田 慎 委員

精密聴力検査機関 147 機関、二次聴力検査機関 261 機関に調査依頼した。2021 年に難聴疑いで来院した 0 歳児と難聴が確定した 1 歳以上 6 歳以下の小児が対象である。

新生児スクリーニング後、生後 4 ヶ月以降に初診となっている割合が増えているが、二次聴力検査機関を経て精密聴力検査機関を受診した例があるからと考えられる。生後 6 か月までに難聴診断した割合が 7 割を切ったが、補聴器適合が 6 か月までに行われた割合は適合しない例より多かった。精密聴力検査結果は両側要精査の 55% が両側難聴であり、片側難聴の 6% が両側難聴であった。2000 年は全出生の 1000 人に 8 人の児が外来受診し、全出生に対して 0.14% に両側難聴が見つかり、過去の報告に一致した。補聴器を適合した乳児は両側難聴児の 57.3%、療育が始まった両側難聴児は 53.3% でありこの数年変化がなかった。

2020 年に発見された 1 歳以上の難聴児は高度難聴 78 例、中等度難聴 146 例、軽度難聴 165 例、片側難聴 402 例であった。3 歳以降で見つかる中等度難聴児や 4 歳以降で見つかる軽度難聴児もあり、それ以前の健診で見つかるべき難聴であることから対策が必要である。

聴力図正常だがことばの聴き取り困難のため言語発達障害を来す例が、健診で自閉スペクトラム症疑いとして振り分けられる例も増えることが考えられ、このような例をどのように適切にフォロー・アプローチするのかが新たな課題である。また、都道府県ごとの難聴発見割合にばらつきが見られ、報告漏れやドロップアウト例への対策が必要である。

3. 精密聴力検査機関および二次聴力検査機関リストの改定について： 増田 佐和子 委員

精密聴力検査機関と二次聴力検査機関のリストの改定を行う。2020 年 3 月 31 日時点で二次聴力検査機関は 147 施設、精密聴力検査機関は 260 施設の登録がある。2022 年度の改定は 2 月中に新たなリストを日耳鼻 HP で公開する予定であり、要確認。精密聴力検査機関および二次聴力検査機関においては、次回の「新生児聴覚スクリーニング後、および 1 歳～6 歳児の聴力検査機関実態調査」にむけて、2022 年 1～12 月に受診した対象児のデータの保存を行うよう要請する。

4. 令和 2 年度 3 歳児健診における聴覚検査および 1 歳 6 カ月時健診における聞こえの確認方法に関するアンケート調査報告： 樫尾 明憲 委員

3 歳児健診における聴覚検査については、受診対象者は除外対象によってばらつくが大きな変化はなかった。厚労省方式の使用率は 90% 程度で変化はなかった。感音難聴の検出率は例年 10 万人あたり 2-4 人と低い、2020 年は低下が見られており、今後注視する必要がある。

1 歳 6 ヶ月児健診では、聞こえの確認方法が「母子手帳のみ」となっているのはわずかであり、問診票が主に用いられていた。実施形態は昨年同様集団健診が主流であった。リーフレット導入状況は昨年と大きな変化はなく、依然として 50% 未満であり、導入の進展は認めていなかった。

5. 令和 2 年度軽度・中等度難聴児に対する補聴器購入費用助成制度の地域差に関する調査報告： 麻生 伸 医会理事

補聴器購入費用助成の制度や助成額に地域差があることが 2018 年に明らかとなり、その 3 年後の調査をこの度行った。47 都道府県及び 20 の政令指定都市に対し調査票にて施行した。すべての自治体で費用助成制度があるとの回答だった。助成対象基準は 30dB 以上で認める自治体が

ほとんどであり、医師が認めれば基準外や両耳、イヤーマールドの費用助成や更新も90%以上の自治体で可能としていた。対象は多くの自治体で18歳ないし高校生までであった。都道府県、市町区村、自己負担の割合をそれぞれ1/3ずつとしている自治体が多かった。無線式補聴援助装置（Roger など）、軟骨伝導補聴器、修理費などに対応が二分していた。具体的な助成人数、助成金額には大きな地域差があった。不平等がないよう地域差をなくす取り組みが必要と考えられた。

6. 総括： 中川 尚志 理事

「共生社会」の概念は国レベルの方針であり、医師の間にも周知される必要がある。Japan Hearing Vision では、難聴者が誰一人取り残されず、生き生きと心豊かに暮らすことのできる社会の実現を目指し、① 出生前、新生児期及び小児期における難聴対策 ② 成人期・老年期における難聴対策 ③ ライフサイクルに応じた難聴対策を支える基盤づくりの3つの柱が政府の骨太の方針に加えられた。

2021年3月より新生児聴覚検査体制整備検討事業にて「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針作成に関する検討会」が開催され、都道府県の難聴児早期発見・早期療育推進プランの作成指針として新生児聴覚検査に係る取組の推進、早期療育の促進のための保健、医療、福祉及び教育の連携の促進、難聴児の保護者への適切な情報提供の促進等を内容とする基本方針を作成している。

また、福岡県では新生児聴覚検査体制整備検討事業として福岡県乳幼児聴覚支援センターの設置を行い、モニタリング（精度管理）、トラッキング（追跡）、電話相談を行い、関係機関の連携による療育継続のための支援を行う体制を構築した。

I. 活動報告

- 1) 日耳鼻認定騒音性難聴担当医の名簿を更新し、最新版を日耳鼻ホームページで公開している。
- 2) 「騒音障害防止のためのガイドライン」見直しについて厚生労働省安全衛生部労働衛生課と協議した。
- 3) 騒音障害防止のためのガイドライン検討会に専門委員を派遣した。
- 4) 厚生労働省、全衛連等の関連団体および日本聴覚医学会と交流した。
- 5) 2020・2021年度第3回産業・環境保健委員会が2021年5月14日（金）にWeb開催され、福與担当理事と鈴木が出席した。
- 6) 2020・2021年度第4回産業・環境保健委員会が2021年8月26日（木）にWeb開催され、福與担当理事と鈴木が出席した。
- 7) 2020・2021年度第5回産業・環境保健委員会が2022年1月29日（土）にWeb開催され、福與担当理事と鈴木が出席した。
- 8) 2021年5月に京都で開催された第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会において「騒音の作業環境測定における留意点 作業者と騒音発生源が移動する場合の個人ばく露との乖離」（和田哲郎、鈴木秀明、福與和正、他）の口演を行った。
- 9) 第25回日耳鼻産業・環境保健講習会（騒音性難聴の部）が2021年1月27日～2月26日の間、Web開催（eラーニングオンデマンド配信）された。受講者は200名であった。
- 10) 2021年度日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議が2022年1月29日（土）にWeb開催され、全国47都道府県の委員長ら54名が参加した。福岡県からは福與担当理事、鈴木の2名が出席した。内容は下記の通りである。

II. 日耳鼻産業・環境保健委員会全国委員長会議

2021年度日耳鼻産業・環境保健委員長会議は、2022年1月29日（土）にWeb開催された。福與担当理事の開会の辞、村上理事長の挨拶の後、以下の講演、報告があった。

- 1) 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課主任中央労働衛生専門官 構 健一氏より、「労働衛生の現状と職場における騒音障害防止対策」の講演があった。
- 2) 福與担当理事から第25回日耳鼻産業・環境保健講習会（騒音性難聴の部）がWeb開催されていることについてのコメントがなされた。
- 3) 和田委員長から「騒音特殊健康診断の現状と課題」についての報告があった。
- 4) 埼玉県地方部会武石委員から同県における2021年度の地方部会産業・環境保健委員会活動報告があった。

質疑応答の後、和田委員長の閉会の辞にて終了となった。

【令和3年度医事問題委員会活動報告】

委員長 熊本 真優子

- ① 令和3年度 第1回福岡県地方部会・福耳会合同医事問題委員会
令和3年8月26日(木) Zoom会議

[報告事項]

- I. 第45回日耳鼻医事問題セミナーの件
Web開催(オンデマンド配信) : 令和4年3月予定
- II. 医師会医療事故アンケート途中集計
福岡県耳鼻咽喉科の医事紛争事例報告 (継続事例5例、新規事例2例)

[協議事項]

- 第3回福岡県耳鼻咽喉科専門医会・日耳鼻福岡県地方部会 医療安全講習会
令和3年10月30日(土) ハイブリッド形式
講習1「知っておきたい救急対応～気道緊急から外傷まで～」井上さとし内科 井上聡先生
講習2「耳鼻咽喉科領域の医事問題対応～医師法などとの関連を含めて～」
東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授 塚原清彰先生

- ② 令和3年度日耳鼻医事問題委員会ワークショップおよび全国会議
日時:令和4年1月29日(土) Zoom ウェビナーでの開催(日耳鼻事務局会議室より中継)
出席:熊本 真優子、渡辺 智

1. 委員会報告

第45回日耳鼻医事問題セミナーについて
Web開催(オンデマンド配信):令和4年3月17日12:00～3月31日15:00)

2. アンケート調査結果報告

令和3年度の発生事例数は61例(紛争48例、紛争に至らず13例)、継続76例

3. 事例報告

- 1) 耳領域 14例
耳処置による医療事件事例の検討
- 2) 鼻領域 8例
ESSによる医療事件事例の検討
- 3) 口腔・咽喉・唾液腺・喉頭・頸部領域 26例
リンパ節生検・唾石口内法による神経損傷、扁桃時の口角熱傷、
ミノマイシンによる歯牙色素沈着
- 4) 頭頸部領域 13例
耳鼻咽喉科領域疾患の確定診断の遅れ、他科領域疾患の見落とし、手術合併症

2021年6月3日から6月25日までの間にメール審議を行った。

報告1：地方部会ホームページ移転（6月3日）

ホームページを移転・新規作成した。

旧：<http://www.fukuoka-jibika.com>

新：https://www.qent.med.kyushu-u.ac.jp/fukuoka_branch/

学術講演会の案内、プログラムをこのホームページで公開し、徐々に紙プログラムの配布を廃止可能にする。ただし、各学会事務局の判断に基づく紙プログラム配布を妨げるものではない。

議題1：地方部会ホームページに掲載する委員会報告（議事録）の公開可否

診療報酬改定への要求事項、医事紛争の件数、訴訟対策の講演内容（講演題？）などの意見や報告が、一般の人が自由に見られるホームページに掲載されることに対して、委員会報告のパスワード保護などを含めた対策の是非について委員から発議があった（6月7日）。この件につきメール審議を行い、以下のとおり決定した。

1. パスワード保護はしない。

理由：常時、将来に渡って適切にパスワード管理をし続ける人的体制にないので、「公開できない情報はホームページに掲載しない」という対策の方が現実的である。

2. 各委員会から委員会報告を受け取る前に、報告書作成の際の注意点として以下の点を連絡する（9月24日付で連絡）。

- (1) 議事録・報告書はホームページで公開されることを前提に作成してください。
- (2) 個人情報、係争中の情報、ほか一般公開が好ましくないと思われる内容の議事がありましたら、その部分は削除いただくか、「別紙（非公開資料）参照」として議事録とは分離してください。非公開資料の内容に関する問い合わせが来た場合は当該委員会の委員長に問い合わせを転送しますので、委員会単位で対応してください。
- (3) 広報委員会は、受け取った議事録・報告書を原則としてそのままホームページに掲載しますが、明らかに触法が疑われるなど疑義がある場合はお問い合わせします。
- (4) すでにホームページに掲載されている過去の委員会報告書／議事録について、広報委員で確認いたしました。明らかに掲載にふさわしくないと判断されたものではありません。しかしそれぞれの委員会での判断を優先しますので、各委員会の報告書／議事録で差し替え希望のものがありましたら差し替え後のファイルを地方部会 (gakkai@qent.med.kyushu-u.ac.jp)まで送ってください。